

「わたし、輝く。ともに、輝く。」

校長 大岩 厚

新入生の皆さん、活水高等学校、活水中学校へのご入学、おめでとうございます。活水学院の教職員一同、皆さんを心から歓迎いたします。

また、ここまでお子様を育てこられた保護者と関係の皆さまに、心からお喜び申し上げます。この「活水」という不思議な学校名は、今日読まれた聖書の箇所(ヨハ4:13-14)に由来します。「活水」とは、生き活きと動く活きた水です。神様は、私たちの心が枯れないよう、「活ける水」つまり神様の愛を注いで下さいました。神様の愛を受け、様々な経験を通して自分を磨き、しっかりと学び、この学校で「輝くわたし」になって欲しいと願っています。

そして、私たちが「活ける水」として、神様の愛を伝えるものとなり、受けた愛や学んだ知識を自分の中から湧き出させ、周りに仕合わせを分け与える人になって欲しいと願います。その事が、周りの人々と「ともに輝く」人生に繋がります。

今、私たちも含め、世界中が新型コロナウイルスの試練に直面しています。その様な中で、私たちは何をすべきなのか、何を学ぶべきなのか、出来ない事を嘆くのではなく、出来る事を考え、ともに実行していきたいと思えます。

さて、皆さんは、この活水高等学校、活水中学校に第一希望として、あるいは数ある選択肢の中から自分が選んで入学してきた、と思っておられるかもしれませんが、しかし、聖書の中には、神様の言葉として、「あなた方が私を選んだのではない。私があなた方を選んだ。(ヨハ15:16)」と書かれています。皆さんは、この学校を自分で選んだとともに、実は神様が、この学校に来るように選んでくださったのです。皆さんは、神様から選ばれ、愛された一人ひとりなのです。

ですから、自分を大切にしてください、そして、自分の価値に目覚めるとともに、自分と同じように自分の隣にいる友だちも大切にしてください。神様から愛され、守られつつ、この活水高等学校、活水中学校で、まずは、自分を高めるためにしっかりと学習に取り組み、知識を深めましょう。そして、これからの社会を担っていくために、挨拶などの基本的なマナーと生活習慣を身につけ、クラブ活動やボランティア活動などを行い、視野を広げ、いろいろな経験を重ねて、「わたし、輝く。ともに、輝く。」そのような実りある学校生活を送っていただきたいと思えます。

私たち教職員も、神様から与えられた使命として、皆さんへの教育活動に力を注ぎます。ともに歩んでいきましょう。

今日から始まる新しい歩みの上に、また皆さんにつながるお一人お一人の上に、神様の祝福と恵みが豊かにあるようお祈りして、校長の式辞といたします。(2021年度入学式式辞より)

「輝くわたし」に — 入学式 祝福のうちに

4月9日(金)午前10時より、チャペルにおいて中学・高校入学式が行われました。

保護者の見守る中、中学1年生から順に入場、礼拝形式で進みましたが、讃美歌は声に出すことは控え、高校Ⅲ年音楽コース声楽主科の三名が讃美をしました。宗教主任によって聖書が読まれ、祈りがささげられました。各クラスの代表生徒へ入学許可証が授与され、続く式辞の中で校長が新入生への歓迎と励ましを述べました(入学式式辞参照)。

コロナ禍の下、消毒や換気、入場制限、健康観察の提出等、来場の皆様にはご協力をいただき、ありがとうございました。

新入生の学校生活に神様からの祝福が豊かにありますように。

(石村直義)



今月の聖句

「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」と書いてある。(マタイ4:4)

イエス様が悪魔に誘惑を受けた場面で話された言葉です。誘惑と戦った時、イエス様ご自身の言葉ではなく、旧約聖書の言葉を引用なさったのです。

当然のことですが、私たちは誰かから聞いたり習ったりしたか、本などで読んだ言葉しか使うことはできません。人を励ます言葉も、人を傷つける言葉も、その人が誰かからかけられたから、使うことができるのです。

みなさんも礼拝で、人を励ます御言葉(神様の言葉を「みことば」と言います)をたくさん心に蓄えて、友人にその言葉をかけてみてください。(三河悠希子)

クラブ活動の勧め

4月12日(月)、中学校はシオンホール、高校はチャペルで、それぞれ生徒会役員の司会進行により、新入生向けのクラブ紹介が行われました。中学校では、部員が勢ぞろいするクラブ、動画を使うクラブ、演技を披露するクラブ、などそれぞれが工夫していました。高校では、生徒会役員の撮影・編集した動画でそれぞれのクラブ・同好会・愛好会を紹介しました。部活動を通して一生の友を得たり、意外な先生方の横顔が分かったり、クラス・学年を越えた豊かなつながりが広がったりします。みなさんの入部を、心から歓迎・お待ちいたします。(山口真樹人)

ようこそ新任の先生方



松尾 宏之 先生
(まつお ひろゆき)
英語科



長門 祐二 先生
(ながと ゆうじ)
保健体育科



草野 深音 先生
(くさの みお)
数学科



池田 保幸 先生
(いけだ やすゆき)
社会科



嘉村 真衣 先生
(かむら まい)
音楽科



馬場 彬 先生
(ばば あきら)
国語科

5月行事予定



6(木)

中1・高一耳鼻科・眼科健診
中学暗唱大会

7(金)

高三就職説明会

8(土)

特進コース課外授業

10(月)

中間審査時間割発表

11(火)

高三予約奨学金説明会

17(月)

スクールテスト音コース

18(火)

高校中間審査(19日)

19(水)

中学中間審査(18日)

20(木)

高三前期生徒総会(審査終了後)

21(金)

キリスト教講演会

22(土)

花の日礼拝(26日)

23(日)

高三大学入学共通テスト説明会

25(火)

特進コース課外授業

26(水)

教会出席日

27(木)

ペンテコステ礼拝

28(金)

高校総体開会式リハーサル

31(月)

中3全国学力学習状況調査

31(月)

学級PTA

31(月)

1〜4校時授業・午後カット

31(月)

中学高校総体開連40分授業

31(月)

高校総体開会式リハーサル予備日

31(月)

(6月4日)

iPadを活用した学習が進行中 中学

活水中学校では2021年4月13日（火）からiPadを1人1台配布しております。iPadを活用して文部科学省が育成すべき資質・能力の三つの柱の他に、これからの社会を生き抜いていくための「コミュニケーション能力・プレゼン能力」や「情報リテラシー」を養ってほしいと考えています。

本校ではオンライン学習教材「すらら」と「ロイロノート」と「Teams」を軸にICT教育を展開しています。具体的には数学や英語では教科書に付いているQRコードを読み込んで動画教材や音声教材を利用したり、社会や国語ではロイロノートで意見交換を行っています。聖書の時間では小テストを紙を使わずにiPadの中で行っています。総合の学習でも調べ学習に利用でき、iPadを利用してグループでプレゼンを作成し発表を行っています。

授業内外での活用方法を今後さらに研究していきたいと思っています。（榎原司門）
＜生徒の感想から＞

授業中にiPadを利用し友達と意見交換をするのはとても新鮮で楽しいです。ロイロノートで意見を提出し、皆で共有することができます。今まで手を挙げた人や当てられた人の意見しか聞けなかったけど、今ではクラス全員の意見を見ることができて「こんな意見もあるんだ。」と学びの幅が増えました。友達とプレゼンを作成したりデザインする時間もとても面白く楽しいです。他にも課題や板書を写真で撮ってからノートに記録したり、生活の様子を写真に残せることもとても便利です。「すらら」では授業の先取り学習や復習など自分がしたい所を学習出来ます。毎日の持ち帰りや充電をしないといけないことが少し大変ですが、休み時間も学習に活用できます。また、ホーム画面などを自分流にアレンジできるのでそこも楽しみの一つです。（小島穂花・米谷潮里）



先生たちもICT研修

中学で定着しつつあるiPadを利用した授業は高校でも導入が予定されています。

5月の下旬には、高校I年生全員にiPadが配布され、探究学習や各教科の学習に利用されることになっています。

このICT授業は、これ以降の学年で、順次導入されていきますが、そのために、先生たちも定期的に研修会を開いて活用方法を研究しています。

今後、探究学習や教科の授業で、タブレットが効果的に使われ、学習活動の幅が広がっていくことでしょう。（編集部）



高I 探究学習スタート ICTの導入も

今年度の「総合的な探究の時間」が高校I年生で実施されています。

活水高校では、学習のテーマを、「自己理解」を起点にして、「他者理解」、「地域社会・日本社会・国際社会の理解」と、段階的に広げていく形で設定しています。

4月21日（水）に行われた最初の活動では自己理解を目的に、自分に関する「マインド・マップ」づくりに取り組みました。今後iPadの導入も予定されているので、多様な学びの場が展開することになるでしょう。（編集部）



しっかりと将来を見据えて— 高III 進路を考える

コロナ禍というハンディを抱えながらも、高校III年生は、自分の将来を選択する大きな節目を迎えています。活水高校でもこれを支援するため、様々なプログラムを用意しています。4月に行われたこれらの企画を紹介します。（編集部）

進路説明会（写真上段）・進学マネープラン説明会（写真中段）

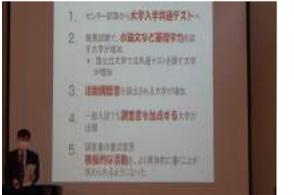
4月12日（月）、本校進路指導部長の古田雄介先生を講師に、大学入試の実情と、これに備えるための準備についての話を聞きました。この後、進学に際してのマネープランについて、日本ライフプラン研究所「家計と暮らしと住まいの相談室」相談員の鶴田明子先生から実際の話を聞くことができました。

将来学「編集者の仕事」（写真下段）「卒業生講演」

4月21日（水）、「ながさきプレス」の編集長中島悠希子さんが「編集者の仕事～タウン誌編集者の立場から」、4月28日（水）には、卒業生の橋村愛さん（美容室Shin）が「美容師とは」、佐藤詩子さん（広告代理店勤務）が「Follow a Career path」という題で、自らの職業体験を語っていただきました。

志望理由書の書き方講座

4月14日（水）、草野十四朗先生を講師に、志望理由書の重要性について説明がされたあと、実際の指導事例をもとに、具体的なアドバイスを受けました。



避難訓練 体験を通して自分で判断する力を

4月13日（火）、全校で火災発生を想定した避難訓練を実施しました。今年度初めての訓練でしたので、生徒・教職員の避難経路確認と火災時の教職員の対応確認を目的としました。天候が悪く、雨天時計画の訓練であったため、グラウンドでの安全確認である点呼訓練ができませんでした。しかし、実際の火災や災害時には、悪天候でもグラウンドへ避難しなくてはならない事態も起こります。

非常時には、「どこで」「何が」起こったかの情報を正確に把握し、「どのように行動するか（避難するか）」を迅速に判断しなくてはなりません。訓練でその状況を体験しておくとなれば、きっと役に立ちます。次回の訓練は11月の予定です。

訓練のための訓練にならないように、「実際に災害に直面したらどう行動するか」を考えながら訓練に臨んで欲しいと思います。（保健・学校安全：増田康子）

高II いしぶみもり活動 事前学習会も

4月23日（金）、被爆遺構を清掃する「いしぶみもり活動」が、高校II年生によって行われました。この活動は、本校の被爆の歴史を何らかの行動で受け継いでいこうという趣旨で、17年前に始まったものです。しかし、この学年は、コロナの影響で昨年実施できなかったため、今回が初めての活動となりました。

また、これに先立つ4月21日（水）には、平和学習部が活水高校周辺の被爆遺構について説明する学習会が開かれました。同部員たちは各エリアごとに、分担して説明していきましたが、活水高校に被爆遺構があったことに、生徒たちは大きな驚きを持ったようです。この後、絵本「ふりそでの少女」の朗読も行われました。（編集部）

